

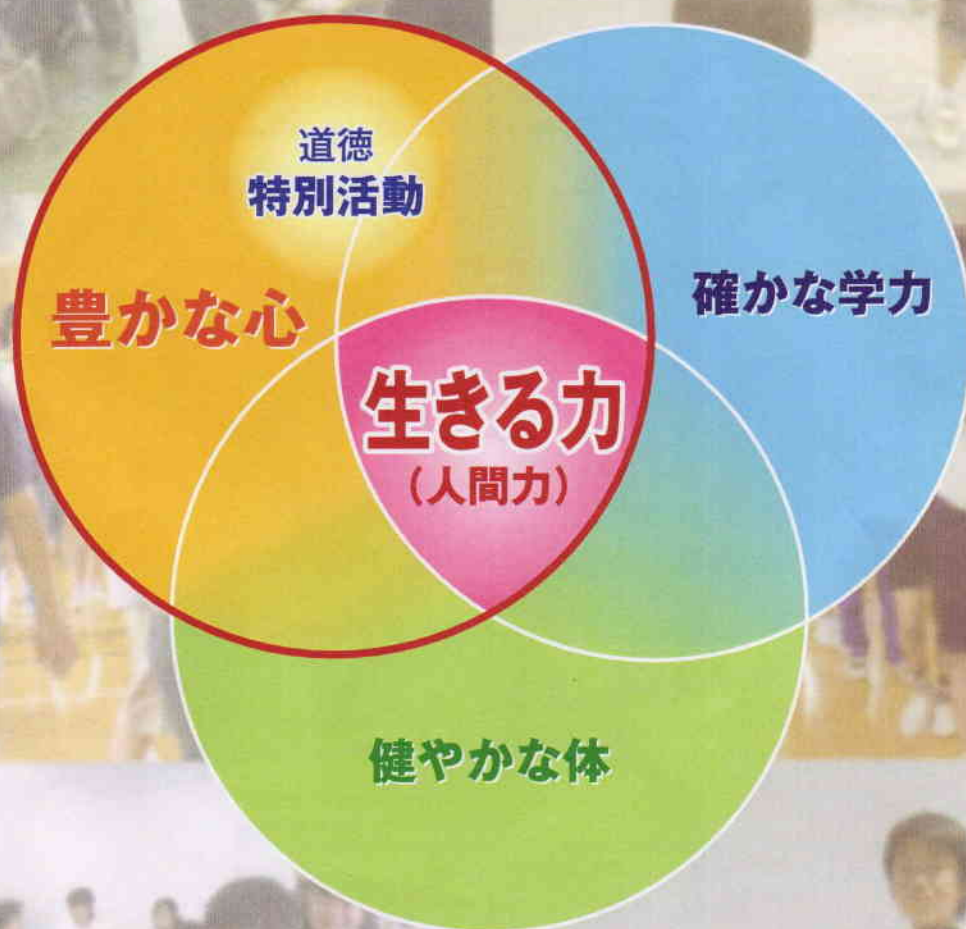
人間形成に果たす特別活動の役割と

全国特別活動研究会

50年の歩み

全国特別活動研究会はお陰様で結成50周年を迎えることができました。時代の流れの中で特別活動の形は少しずつ変わってきましたが、集団活動を通して一人一人の人間形成を図るという本質とその重要性は変わっていません。たくましく豊かな「人間力」の育成が叫ばれている今日、小・中・高等学校における特別活動の役割はますます重要になっています。

50周年を機に、先生方、保護者、地域の方々と共に特別活動への理解を深め、さらなる充実発展を図るために、本リーフレットをご活用いただければ幸いです。



全特活プロフィール

日本全国の特別活動を研究する先生方が小・中・高等学校の校種を越えて実践交流ができる研究団体です。

- 毎年1回全国各地で開かれる全国大会
- 毎年熱海で開かれる冬の宿泊研究会
- 会報「全特活」年2回発行。機関誌「特活の研究」年1回発行
- 会員数約900名。全国各支部の研究大会と連携

人間形成に果たす 特別活動の役割

特別活動は、自分の考えを明確にして、他者や集団に進んで働きかける「**主体性**」や「**積極性**」、目的に向かって正しい方法を選択し、よりよい方法を創り出し実行できる「**行動力**」や「**創造力**」をはぐくむことができます。

いじめや不登校、学級の荒れなどの諸問題の解決には、学級に認め合い支え合う仲間がいること、自分の役割があり個性の輝く場があること、自分の考えを伝えることのできる温かい雰囲気があることが大切です。

厳しさに耐え、困難を乗り越える体験や、友達と力を合わせてやり遂げる体験、創意工夫してよりよいものを創り出す体験など、特別活動の実践をととして、自尊感情をはぐくみ、充実した楽しい学校生活を目指すことができるからです。

主体性・

自己理解(自尊)・
健康増進力
意思決定力
将来設計力など

個人と社会との関係

責任・権利・勤労
社会・文化・自然理解
言語・情報活用力
知識・技術活用力
課題発見・解決力など

人間

望ましい集団活動

入学式・卒業式
始業式・終業式
修了式
開校記念式典
離任式
朝会など

学芸会
音楽会
展覧会
音楽・演劇鑑賞会
学習発表会
文化祭など

運動会
交通安全教室
避難訓練
健康診断
体育祭など

遠足
移動教室
林間学校
修学旅行など

飼育栽培活動
校内美化活動
地域清掃など

朝会・始業式・終業式

学芸会・音楽会・展覧会

運動会・交通安全教室・避難訓練・健康診断・体育祭

遠足・移動教室・林間学校・修学旅行

飼育栽培・校内美化・地域清掃

学校行事



なすことによって学ぶ

自主的・自発的・
自治的活動に必要な
情報の収集・活用

目標

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を(図り)図るとともに、集団(や社会)の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる(とともに、人間としての(在り方・)生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う)。

内容

自律性

自己責任(自律)

自己と他者との関係

力

協調性・責任感
感性・表現力
人間関係形成力など

※中央教育審議会初等中等教育分科会
教育課程部会(平成18年2月13日)より

生徒会活動

ホームルーム活動

話し合いの活動
適応指導
健康安全指導
計画委員会等の組織
係活動
集会活動など

代表委員会活動
委員会活動
児童会集会活動など

児童会活動

学級活動

共通の興味・関心を追求する集団活動

異年齢集団活動による社会性の育成・個性の伸長を図るところに特質があり、余暇の有効活用や地域社会での活動に発展できます。

クラブ活動

特別活動

国際社会に生き、社会の変化に力強く対応できるように、子どもたち一人一人の思考力・判断力・表現力などの資質や能力を育成することが重要です。特別活動の望ましい集団活動の実践によって、個性と創造力を伸ばすとともに、道德教育の実践の場として位置付けることにより、心豊かな日本人を育成していくことができます。

積極的に社会参画し、義務を果たし、正義や公正さを重んじて、国際社会に貢献できる社会人を育成するのです。

学校生活の充実と向上を図る

楽しく豊かな学校生活づくりのために、全員で話し合い、協力して実践することにより、実生活に生きる社会性の育成を目指します。

こうしたい。

これはなんとかしなければならない問題だ。

と、生活改善の必要性に気付くことで

こうすれば楽しい学校(学級・ホームルーム)になる。

確かにこれはみんなで解決しなければならない問題だ。

と、全体の課題となったとき

こうすれば良さそうだ。

と、可能性を見極め、解決方法を話し合い、実行した結果

自分たちの力でできた。

やって良かった。

という自信と満足感で満たされ、さらに、

他にも自分たちのすべき問題はないか。

という意欲につながる。



教師の適切な
指導・助言

A.学級活動(ホームルーム活動)

- (1)学級(ホームルーム)や学校の生活の充実と向上に関する事
- (2)日常生活や学習への適応及び健康や安全に関する事
- (2)個人及び社会の一員としての在り方(・生き方)、健康や安全に関する事
- (3)学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択(・決定)に関する事

B.児童会活動(生徒会活動)

C.クラブ活動

D.学校行事

- 儀式的行事●学芸的行事
- 健康安全・体育的行事
- 遠足(旅行)・集団宿泊的行事
- 勤労生産・奉仕的行事

(緑/小学校 赤/中・高等学校 青/高等学校)

特別活動の歴史 & 全国特別活動研究会 50年の歩み

学習指導要領（試案）（昭和22年）

学習指導要領一般編が発表され、教育課程の中に「自由研究」が登場し、法的根拠が与えられた。自由研究においては、クラブ活動、学級・学校における委員・係りの活動を教科と称して課したものであり、後の「特別教育活動」の母体になったといってもよい。また、新制中学校発足当時「選択教科」の一部として「自由研究」を置き、ついで発足した高等学校においても、継承された。

学習指導要領（昭和33年）

※学校教育法施行規則の一部

学校教育法施行規則の中に「特別教育活動」の目標や内容を明確にした。

「全国教科外・特別教育活動研究会」第1回 結成大会開催

〈会場〉東京都新宿区津久戸小学校

〈主題〉「教科外活動・特別教育活動をどう改善すべきか」

学習指導要領（試案）（昭和26年）

小学校で「自由研究」が「教科外の活動」として位置づけられた。中学校・高等学校においては、教育課程の中に特別教育活動を位置づけ、ねらい、内容などが明らかになった。

1946
(昭和21年)

1947
(昭和22年)

1949
(昭和24年)

1951
(昭和26年)

1955
(昭和30年)

1959
(昭和34年)

「新教育指針」公布（昭和21年）

学級自治会や校友会における生徒の活動が自治の訓練の主要な場面として重視された。また、新しい教育の公民科に「自治の修練」が含められた。

中学校において自由研究を廃止し「特別教育活動」を設置した。高等学校も同様の措置をとった。

第3回 全国大会 全国小・中・高の合同

〈会場〉東京都台東区立西町小学校

〈主題〉「教育課程改訂と生活教育」
～特に新しい特別活動について～

明治時代後期から各学校では、修学旅行や運動会などの学校行事が独自に企画され、その教育的意義が認められていた。

全特活機関誌
「特活の研究」創刊



汗だくの分科会協議(第15回の模様)

会の名称を
「全国特別活動研究会」に変更

全国を9地区に分け
支部を設置

- 北海道 ●東北 ●関東 ●東京
- 中部 ●近畿 ●中国 ●四国
- 九州

第6回 全国大会(初の地方大会)

〈会場〉新潟市
〈主題〉「特別教育活動の充実を
どのようにして図ったらよいか」

1962
(昭和37年)

合宿研究会 開始

〈場所〉館山市「鳩山荘」

1960
(昭和35年)

支部大会・月例研究会
の開始

1968
(昭和43年)

中学校で「特別活動」となり、
内容が生徒活動、学校行事、
学級指導となる。

1969
(昭和44年)

学習指導要領の改訂 (昭和43年。中学校は昭和44年、
高等学校は昭和45年)

小学校で「特別活動」となり目標が明確にされ、内
容が児童活動、学校行事、学級指導となる。

1958
(昭和33年)

1957
(昭和32年)

研究団体へ発展

小学校他
指導の動向」
い指導技術を求めて～



初の合宿研究会(鳩山荘)

歴代会長

初代 小菅 信作 1957～	第13代 小松 一之 1987～
第2代 村上 俊亮 1960～	第14代 小林 秀一 1988～
第3代 柿沼 良平 1963～	第15代 白井 三恵 1990～
第4代 近藤 正平 1966～	第16代 伴 貞男 1992～
第5代 岩崎 武夫 1970～	第17代 福良 幹夫 1993～
第6代 山田 明 1973～	第18代 関根 和夫 1995～
第7代 高橋幸三郎 1975～	第19代 今野 正保 1997～
第8代 二宮 久保 1978～	第20代 本間 研一 1999～
第9代 大石 勝男 1980～	第21代 上原 行義 2001～
第10代 宮田 正人 1982～	第22代 物井 弘 2003～
第11代 本間万亀尾 1984～	第23代 山中 和彦 2005～
第12代 木庭 清八 1985～	第24代 小野寺輝子 2006～

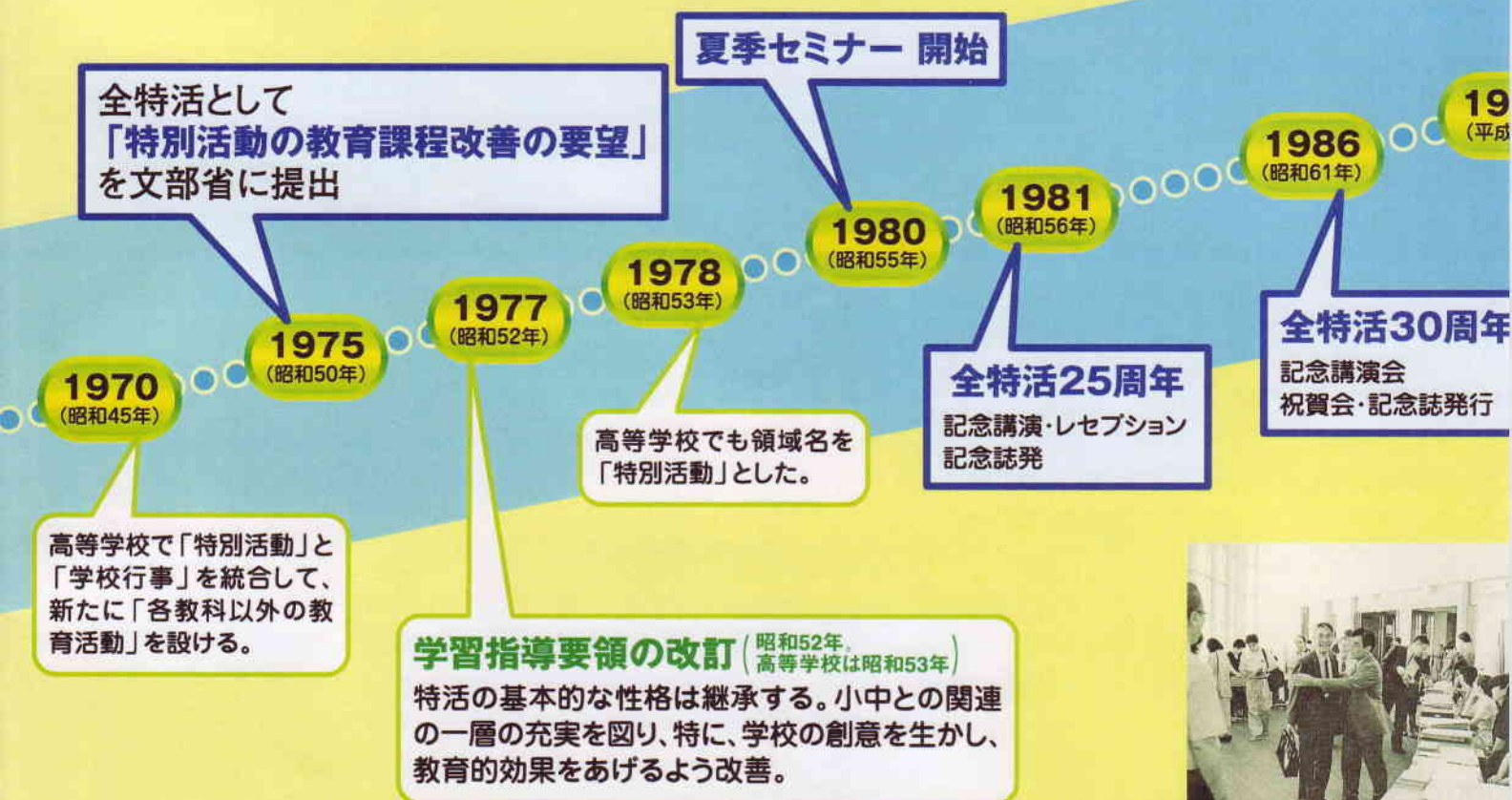


第15回 全国大会



活発な月例研究会(昭和56年)

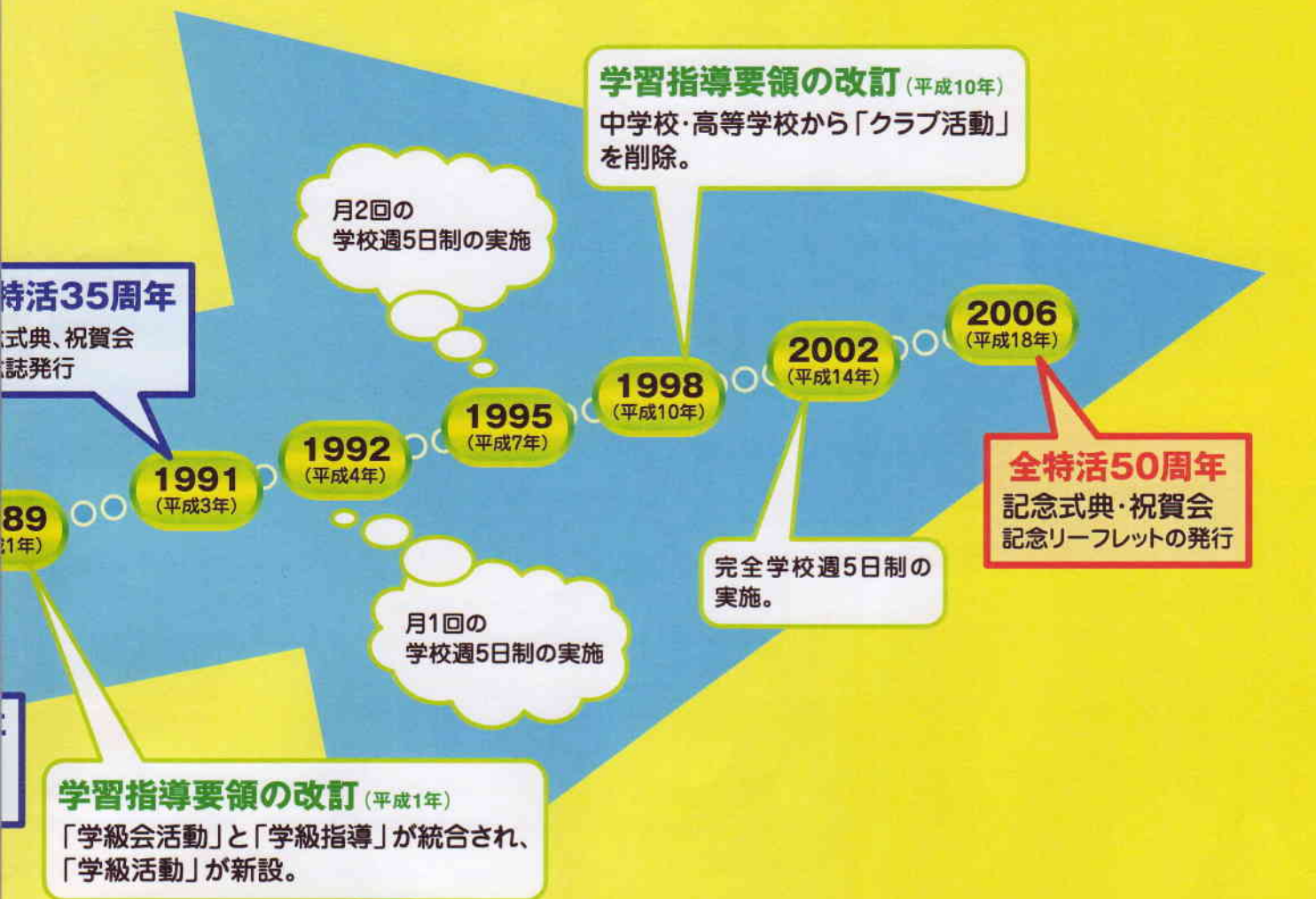
全
特
活
記
念
記
念



第41回 :

大 会

1955 第1回 「教科外活動・特別教育活動をどう改善すべきか」	1974 第18回 「これからの学校教育と特別活動」
1956 第2回 「転機にたつ教科外活動・特別教育活動をどのように高めるか」	1975 第19回 「現代の学校教育の課題にこたえる特別活動」
1957 第3回 「教育課程改訂と生活指導の動向」	1976 第20回 「学校教育の課題にせまる特別活動」
1960 第4回 「これからの特別教育活動をいかに実践するか」	1977 第21回 「ゆとりある充実した学校生活を」
1961 第5回 「特別教育活動の前進をどう図ったらよいか」	1978 第22回 「児童・生徒がたくましく育つ学校を」
1962 第6回 「特別教育活動の充実をどのようにして図ったらよいか」(新潟)	1979 第23回 「新教育課程と特別活動の再検討」
1963 第7回 「特活の本質を究明する」	1980 第24回 「新教育課程を生かす特別活動」
1964 第8回 「これからの特別教育活動の研究と実践の方向を究明する」	1981 第25回 「豊かな人間性を育てる特別活動」
1965 第9回 「特活におけるひとりひとりを生かす集団活動の進め方を究明する」	1982 第26回 「今日的課題にこたえる特別活動」
1966 第10回 「発達段階に応ずる特別教育活動の内容を究明する」(徳島)	1983 第27回 「今日的課題にせまる特別活動」
1967 第11回 「特別教育活動における集団活動の特質とその展開のあり方を追求する」	1984 第28回 「現代の子どもの確かな成長を」
1968 第12回 「人間形成と特別教育活動」(神奈川)	1985 第29回 「現代の子どもの確かな成長を」
1969 第13回 「新しい特別活動の実践と研究をどのように進めたらよいか」(兵庫・神戸)	1986 第30回 「望ましい人間関係を育てる特別活動」
1970 第14回 「新しい特別活動の指導をどのように進めたらよいか」	1987 第31回 「望ましい人間関係を育てる特別活動」
1971 第15回 「望ましい人間形成をめざし、特別活動の目標をどのように達成したらよいか」	1988 第32回 「21世紀に生きる人間を育てる特別活動」
1972 第16回 「望ましい人間形成に果たす特別活動の役割」(埼玉・大宮)	1989 第33回 「21世紀に生きる人間を育てる特別活動」
1973 第17回 「特別活動の本質を究明する」	1990 第34回 「新しい特別活動の実践」



全国大会



第45回 全国大会



主 題	
「新しい特別活動の実践」	1991 第35回 「新しい特別活動の実践」
「豊かな心を持って、主体的に生きる力を育てる特別活動」	1992 第36回 「豊かな心を持って、主体的に生きる力を育てる特別活動」
「活動のあり方」(静岡・浜松)	1993 第37回 「主体的に生きる力を身につける特別活動」(静岡)
「めざす特別活動」	1994 第38回 「望ましい集団活動を通して、主体的に生きる力を育てる特別活動」
「校づくりと特別活動」(北海道・札幌)	1995 第39回 「これからの教育に果たす特別活動の役割」(熱海)
「実践」(新潟)	1996 第40回 「たくましく生きぬく力を育てる特別活動」(愛知・豊橋)
「活動」(熊本)	1997 第41回 「自分らしさを発揮し、共に生きる力を育てる特別活動」
「活動の創造」	1998 第42回 「心のふれあいを深め、たくましく実践する力をはぐくむ特別活動」(北海道・札幌)
「実践」(青森・八戸)	1999 第43回 「自己を生かし、ともに生きる力が育つ特別活動」(広島・呉)
「めざす特別活動」	2000 第44回 「学校生活を彩る特別活動」(埼玉・大宮)
「めざす特別活動」	2001 第45回 「夢や希望をもち、共に生きる子どもをはぐくむ特別活動の創造」(九州・福岡)
「特別活動」(埼玉・浦和)	2002 第46回 「子どもの明るい未来を創造する特別活動」
「特別活動」(仙台)	2003 第47回 「互いに響き合い高め合える子どもをはぐくむ特別活動」(大阪)
「特別活動」	2004 第48回 「共に輝き 明るい未来を拓く 特別活動」
「特別活動」(北海道・札幌)	2005 第49回 「共に輝き 明るい未来を拓く 特別活動」
	2006 第50回 「人間力を高める これからの特別活動」(新潟)

【黒字:東京大会/赤字:地方大会】

全国特別活動研究会 全国の組織一覧

※都道府県レベルに限定してあります。()内は、平成18年度会長氏名です。

東北地区

青森県小学校教育研究会特別活動部会(蝦名 功)
秋田県特別活動研究会(岡部作雄)
山形県小学校教育研究会特別活動部会(佐藤俊平)
岩手県小学校教育研究会特別活動部会(齋藤 進)
福島県小学校教育研究会特別活動研究部(宇佐美秀昭)
宮城県連合小学校教育研究会特別活動部会(石橋俊郎)

中部地区

石川県特別活動研究会(定槻孝雄)
新潟県特別活動研究会(橋本定男)
静岡県教育研究会特別活動研究部(廣澤福松)
名古屋市特別活動実践研究会(梅本幸夫)
尾張教育研究会特別活動研究部(沢木誠治)
三河教育研究会特別活動部会(佐野和久)

中国地区

鳥取県小学校教育研究会特別活動部会(大谷健二)
島根県特別活動研究会(浜田満明)
岡山県小学校教育研究会特別活動部会(菱川良一)
広島県小学校教育研究会特別活動部会(仲本福恵)
山口県小学校教育研究会特別活動部(片山洋子)

北海道地区

北海道特別活動研究会(濱田美樹)

東京地区

東京都小学校特別活動研究会(藤縄 清)
東京都中学校特別活動研究会(加々美 肇)
東京都高等学校特別活動研究会(花野耕一)

関東地区

群馬県小学校特別活動部会(田村和夫)
群馬県中学校特別活動部会(中村 洋)
栃木県小学校教育研究会特別活動部会(半田全孝)
茨城県教育研究会特別活動教育研究部会(八木 茂)
埼玉県特別活動研究会(石塚忠男)
埼玉県高等学校特別活動研究会(市川博章)
千葉県教育研究会特別活動・学級経営部会(首藤守男)
神奈川県小学校教育研究会特別活動研究部会(大庭 豊)
神奈川県公立中学校教育研究会特別活動部会(小幡良夫)

四国地区

香川県小学校教育研究会特別活動部会(小笠原正治)
徳島県小学校教育研究会特別活動部会(垂水 實)
愛媛県教育研究協議会特別活動委員会(芝 英徳)
土佐教育研究会特別活動部会(岡田敏彦)

近畿地区

京都府小学校教育研究会特別活動部(浅田隆夫)
滋賀県小学校教育研究会特別活動部会(中井英雄)
奈良県小学校教科等研究会特別活動部会(小西静夫)
奈良県中学校教科等研究会特別活動部会(植田榮一)
和歌山県小学校教育研究会特別活動部会(津田成章)
大阪府小中特別活動研究会(藤木和夫)
兵庫県特別活動研究協議会(花房光一)

九州地区

福岡県小学校特別活動研究会(高山久美)
佐賀県小学校教育研究会特別活動部会(國政幸二郎)
大分県小学校特別活動研究協議会(赤星正與志)
長崎県小学校教育研究会特別活動研究部会(森 保史)
宮崎県小学校教育研究会特別活動部会(倉岡豊実)
熊本県小学校特別活動研究会(坂梨一也)
鹿児島県小学校教育研究会特別活動部会(溝口 敬)
沖縄県小学校特別活動研究会(伊波シゲミ)

全国特別活動研究会会長・小野寺輝子(足立区立東綾瀬小学校校長) ☎ 03(3620)7144 FAX. 03(3620)7142
【事務局】世田谷区立経堂小学校内／事務局長・銀杏陽子(校長) ☎ 03(3420)3279 FAX. 03(3420)2903

URL:<http://www.tim.hi-ho.ne.jp/zentokkatu/> Email:zentokkatu@tim.hi-ho.ne.jp